

**県広域で斑点米カメムシ類が本田へ侵入しています！
また、複数のほ場で発生量が平年より多くなっています！
ほ場の出穂状況を注視し、適期防除を徹底しましょう！**

1 作物名 水稻

2 発生現況

- (1) 県全体の出穂期は7月 29 日で平年(8月1日)より3日早く(宮城県みやぎ米推進課7/30 発表)、7月下旬の巡回調査では3割のほ場で出穂期に達している。
- (2) 7月下旬の巡回調査の結果、本田における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かった。(図1)。
- (3) 出穂期に達したほ場(出穂状況 50%以上)では、アカスジカスミカメのすくい取り虫数が多かった。(図2)
- (4) アカスジカスミカメは県広域で本田への侵入が確認されており、大型のホソハリカメムシ及びクモヘリカメムシも複数地点で本田への侵入が確認されている(図1)。

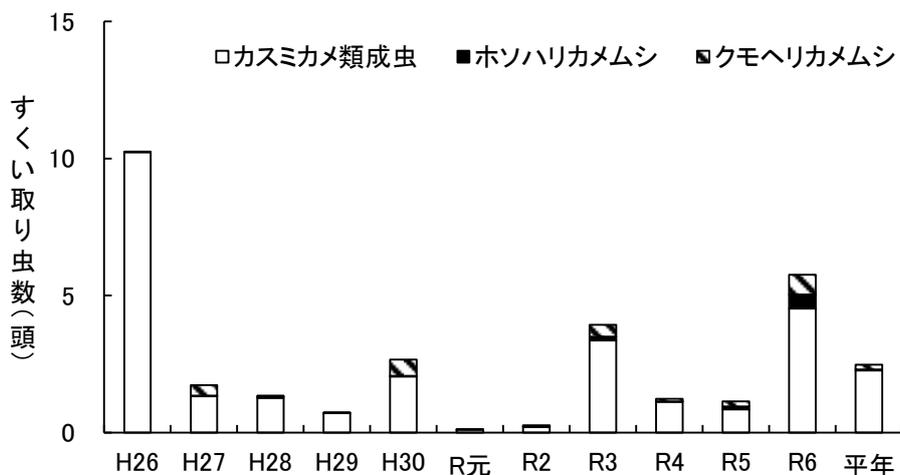


写真 クモヘリカメムシ

図1 本田における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数 (7月下旬)

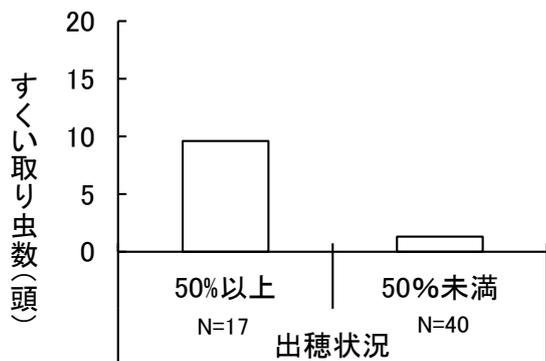


写真 アカスジカスミカメ



写真 ホソハリカメムシ

図2 出穂状況別の本田におけるアカスジカスミカメのすくい取り虫数 (7月下旬)

3 防除のポイント

- (1) 注意報第1号(7月19日発表)。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/28966/r06chuiho01.pdf>
- (2) 水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除を行う。本年は、平年より出穂が早まっているため、出穂状況に注意し、適期防除を徹底する。
- (3) ヒエやイヌホタルイが残草しているほ場では、斑点米カメムシ類の幼虫及び成虫の加害により斑点米被害リスクが高まることから、必要に応じて追加防除を実施する。
- (4) ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤10等)とエチプロール水和剤(キラップフロアブル)はアカスジカスミカメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる。
※普及に移す技術第93号参考資料「アカスジカスミカメの多発条件下における殺虫剤による茎葉散布処理の効果」https://www.pref.miyagi.jp/documents/8592/685973_2.pdf
- (5) 水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長するため、8月中は原則行わない。やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直ちに水田への薬剤防除を実施する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム